

平成 28 年度 学校評価

大成中学校の重点取組について

- (1) 教職員一丸となって「ならぬものはならぬ」の共通認識のもと、生徒との関わりを深める中でさらなる信頼関係の構築が必要である。
- (2) 「地域の子は地域で見守り育てられる」核となる学校づくりと、地域との連携を通じた学校教育力の向上を図っていく必要がある。

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

取組とその成果

研究授業、研究協議の実施、授業改善アドバイザー及び指導主事の活用。
シラバスを作成、活用し、生徒の能動的な授業参加、教員の授業改善を推進する。
小中合同研修会、相互授業参観、入学前課題テスト等の実施。
個別指導計画の作成（特別支援教育）
学力生活実態調査から、授業改善をベースにした学力向上が図られつつある。
小中連携について、小中間の意識にやや差違があるが、さらなる連携が図られている。
体験学習として、外部人材や高校との連携を推進する。
効果的な少人数指導や放課後学習を推進する。

課題

- 1 全教員がアクティブラーニングなど、子ども達の学力をさらに向上させる授業方法について学ぶ必要がある。
- 2 家庭学習の時間に、顕著な伸びが見られていない。
- 3 学力低位層の子どもたちを引き上げるような魅力ある授業参観の実施をしていく必要がある。
- 4 家庭連絡ノートなどの作成による保護者と協力・連携した家庭学習の取り組みをしていく必要がある。

改善策

- ・先進的な取り組みをして効果を上げている学校や同じ市内の学校のいい取り組みを参考に、本校に合う効果あるやり方を考え、具体策を打ち出す。
- ・5教科を中心とした教材をうまく活用し、全学年での終礼時の学習や3年生用の朝学習、放課後学習などに活かす。生徒が達成感を感じるようなものにしていく。
- ・新学習システムの成果が出るように教科での工夫改善を行う。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

取組とその成果

好ましい人間関係を築くために、体験的な活動を充実するとともに、「道徳教育」の充実を図り、豊かな心を育む。

生徒一人ひとりに丁寧に声をかけ、信頼関係の構築に努めるとともに、教育相談週間を設定するなど、学習・生活・進路等に関する相談体制を確立する。

情報モラル等に関する指導の徹底と、フィルタリング機能の設定や、ネット利用における家族ルールの設定を働きかける。

どの学年も友だち・仲間を思う心が育ち、よりよい人間関係づくりが図られつつある。

カウンセリング研修を行うとともに、教育相談週間を設定し、全生徒が全教員に相談できる体制を整えた。

学年行事や生徒会活動を通じてリーダーの育成、学校活性化につなげる。

課題

1 道徳性の涵養に向けて教育活動全体を通して道徳教育を推進しているが、なかなか実生活に結びつきにくい。

2 生徒たちの将来に明るい希望と展望が開かれるように進路説明会を実施しているが、学力低位層の生徒たちのモチベーションを引き上げるのが困難である。

3 きめ細かな進路説明会の実施及び、可能な限りのオープンスクール情報の提供や個別相談等を定期的に行っていく必要がある。

4 学年によって少し差がある。自治活動からの生徒の育成に関しては学年によって差があり、生徒に考えさせて動かしていく体制づくりが今後の課題である。

5 支援の必要な生徒に関しては支援学級の生徒に関しては手厚くできているが、普通学級の生徒の支援に改善の余地がある。情報モラルに関しては授業でも講演会でも危険性を教えているが、携帯電話などの間違った使用による友達間のトラブルが多くなってきている。

改善策

・道徳・学活の年間計画を完全実施する。

・学年ごとに一つの組織として、集会などを課題あるごとに実施する。学年行事や生徒会活動を通じてリーダーの育成、学校活性化につなげる。

・学期ごとにアンケートをもとに教育相談週間を実施する。早期発見、早期対応で未然防止につなげる。SCと連携を深める。

・長欠生徒のための情報交換を毎週行い、保護者懇談を適宜実施し、まめな家庭訪問、別室などの居場所づくりや個別対応を充実させる。

・1年生から『生き方』指導として計画的に指導する。進路学習ノートを作成し、学ぼうとする意欲を持たせる。系統的な体験学習としてキャリア教育を推進していくことで目的意識を持たせる。

・道徳、学活、総合的な学習において年間計画をしっかりと立て、体験的活動などは早くから計画に入れた状態で進めていく。

・自治活動をますます活性化させるために学校運営上の位置づけをしっかりとさせ、生徒主体の動きを推進していく。

・不登校生徒が重症化する傾向が強いため、その兆候が出始めた初期の対応を丁寧にするよう徹底する。関係機関などの連携を含めて様々な取り組みを早い段階から実施していく。

・教育相談を定期的に行い、関係づくりを大事にしていく。

・将来設計を少しでも考えられるよう、進路学習の他に講演会や体験学習などを通して意識付けを図りたい。

3 食育や体育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

取組とその成果

庭との連携を深め、食生活の見直しを中心に、好ましい生活習慣の確立を図る。

家庭科や昼食の時間など教育活動全体を通じて食育教育を行う。

便りや保護者懇談、集会等で「早寝、早起き、朝ごはん」の啓発活動を行い、保護者の協力を求める。

関係機関との連携で食育推進に積極的に努める。

心身の健康と安全に留意し、健康的な生活を実践する態度を養うために、保健だより、学校だより、保健講演会等を通じて啓発活動を行う。

保健だよりの定期発行を通して、生活習慣の見直しが図られつつある。

あらゆる機会を捉えて「命と健康」の大切さについて指導しているので、少しずつ自分の健康については自分で気をつけるようになりつつある。

体育の授業と体育的学校行事のより一層の充実を図り、全教職員で取り組む。

スポーツテストの結果を活用すると共に自ら体力づくりに励む態度を育成する。

クラブ通信や外部指導者の活用等により、部活動の活性化を図る。

課題

- 1 教員の自己研修、読書、研修会への参加、教科間の連携も必要である。
- 2 生徒に考えさせて、動かしていく体制づくりを推進する必要がある。
- 3 本校の生徒の実態に合わせた課題克服のための策を練り、早めに計画して、実施していく必要がある。
- 4 バランスのとれた成長を実現するために本校の生徒の課題を踏まえて、重点目標を設定し、取り組まなければならない。
- 5 家庭科や昼食の時間など教育活動全体を通じて食育教育を行ってきたが、昼食時に菓子パンだけの生徒もあり、十分とは言えない。
- 6 体育的学校行事のより一層充実の図り、全教職員で取り組み、体制の確立を図る必要がある。

改善策

- ・授業において、食育を意識した取り組みはまだ十分とはいえない。今後研修会等を実施し、全教員に「食育」の必要性を意識させる。
- ・健康面から「保健」と「食育」をリンクさせた取り組みを実施していく。
- ・授業公開や「食育だより」等による家庭への情報提供を行っていく。
- ・地域の協力を得た「食」に関する体験活動等を実施し、学校・家庭・地域が連携した取り組みを進めていく。
- ・生徒の運動能力や適性、興味関心等に応じた指導内容にする。
- ・目標や指導の内容・過程・結果等を評価し、指導の改善を図る。

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

取組とその成果

日々の登校指導や下校指導を全教職員で取り組むことの共通理解を図る。校門周辺だけではなく、通学路の要所に立ち、声かけをしながら登下校指導に取り組む。自分の命を自分で守ることが防災教育であり、そのための防災訓練である旨を指導する学期を追う毎にきちんとした登下校が図られるようになってきた。

毎日の登下校指導や集会での事例を元にした安全指導を適宜行う。完全下校の徹底と帰宅時の連絡の徹底。危機管理マニュアルの共通理解と年2回の避難訓練を実施して防災教育を徹底させる。休み時間の校内巡視で施設設備の安全確認を行い、早急に対応する。

課題

- 1 自分の命を自分で守ることの大切さや、常日頃から防災意識を持つことが不可欠である等、全校生徒の共通した意識化に至っていない。
- 2 その都度繰り返し、JR福知山線脱線事故や阪神淡路大震災、3.11東北大震災等の話を語っていく必要がある。
- 3 安全指導、避難訓練を含めた防災教育に関しては、計画的に行っているが、不審者対策の講習会は実施できていないので、また計画を要する。
- 4 交通安全（特に自転車）教室を実施したが、学校外ではルールを守らない生徒の増加が見られる。
- 5 朝礼や集会、学活での安全指導の実施はしたが、まだ徹底されているとは言えない。

改善策

- ・安全な学習環境、生活環境を確保するため、施設・設備の点検を定期的に・日常的に行う。
- ・学校での交通安全（特に自転車）教室を実施するとともに保護者・地域との連携を強化する。
- ・不審者対策等、危機管理機能を高めるため、研修を実施し、必要に応じて対処要領の改善を図る。
- ・地域と連携した防災訓練を計画し、実施する。

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

取組とその成果

教育活動の情報公開を進め、オープンスクールや授業公開を実施し、開かれた学校づくりを推進する。

学校評議員制度や学校評価制度を活かし、学校課題の改善を図る。

究授業の実施により授業力を高め、質の高い授業を実施する。機管理マニュアルを作成する。

学校評価をたよりやHPを利用して、保護者、地域に広く情報公開していく。そこで得た情報やアドバイスを次年度の取り組みとして活かしていく。

地域の掲示板にもたよりや行事のポスターの掲示をお願いしていく。

小・中・高との連携や地域との連携のために参加できる行事を広く呼びかけ、地域で子

供を育てる「共育」活動を推進していく。体育大会の休日開催で広く活動を見てもらう。休日のオープンスクールの実施で小6生とその保護者を含め、より多くの方に普段の学校生活やクラブ活動を見てもらう。

新学習指導要領を踏まえた授業改善をテーマとして研修会を実施したり、外での研修にも積極的に参加を促す。

課題

- 1 オープンスクールや授業公開を実施しているが、参観者自体が少ないためもっと地域・保護者にアピールをしていく必要がある。
- 2 学校評価アンケートを実施し、学校評価の資料としているが、反省と課題が次年度に活かされてない。
- 3 今後、学校評価内容を分析し、全教職員で目標を具現化するための方策が十分ではない。
- 4 教職員との面談は随時行うように心がけ、OJTを活発に行っている。長期的なビジョンでの適材適所を考えた職員の分掌担当を決めているが、まだ十分に機能しないところもある。

改善策

- ・キャリア教育をはじめとして、日常の学校教育活動の中に地域の方にゲストティーチャーとして参加していただくと同時に、その取り組みをHP・ポスター・たより等で広報していく。
- ・学校評価内容を分析し、全教職員で課題を明確にするとともに、目標を具現化するための方策・計画はできるだけ具体的なものとする。
- ・校務分掌においてOJTを活発に行えるよう、ベテランと新任を同じ分掌を担当させる。
- ・授業力や教科を超えた意識・取り組みの改善については研究推進委員会の活用を積極的に図る。

6 その他

本校の教育目標について

- (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開
- (2) 教育目標の具現化と指導の充実

取組とその成果

体験活動や行事を取り入れ、成就感や達成感を味わわせることで一番課題である心と社会力を育てていく。

道徳・学活の年間計画を完全実施する。・学年ごとに一つの組織として、集会などを課題あるごとに実施する。学年行事や生徒会活動を通じて、班活動、学級、学年活動などでリーダーの育成、学校活性化につなげる。

報モラルの計画的指導と生徒向け講演会の実施と情報媒体の管理の徹底を図る。

1年生から『生き方』指導として計画的に指導する。

組織の活性化と適材適所を図り、個に参画意識を持たせる。

課題

- 1 教員の自己研修、読書、研修会への参加、教科間の連携も必要である。
- 2 生徒に考えさせて、動かしていく体制づくりを推進する必要がある。
- 3 本校の生徒の実態に合わせた課題克服のための策を練り、早めに計画して、実施していく必要がある。
- 4 バランスのとれた成長を実現するために本校の生徒の課題を踏まえて、重点目標を設定し、取り組まなければならない。

改善策

- ・キャリア教育をはじめとして、日常の学校教育活動の中に地域の方にゲストティーチャーとして参加していただくと同時に、その取り組みを HP・ポスター・たより等で広報していく。
- ・学校評価内容を分析し、全教職員で課題を明確にするとともに、目標を具現化するための方策・計画はできるだけ具体的なものとする。
- ・校務分掌において OJT を活発に行えるよう、ベテランと新任を同じ分掌を担当させる。
- ・授業力や教科を超えた意識・取り組みの改善については研究推進委員会の活用を積極的に図る。

研究テーマについて

- (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開
- (2) 研究テーマの具現化と指導の充実

取組とその成果

- 研究授業、研究協議の実施、授業改善アドバイザー及び指導主事を活用する。
- シラバスを作成、活用し、生徒の能動的な授業参加、教員の授業改善を推進する。
- 小中合同研修会、相互授業参観、入学前課題テスト等を実施する。
- 個別別指導計画を作成（特別支援教育）する。
- 学力生活実態調査から、授業改善をベースにした学力向上が図られつつある。
- 小中連携について、小中間の意識にやや差があるが、さらなる連携が図られている。
- 効果的な少人数指導や放課後学習を推進する。

課題

- 1 全教員がアクティブラーニングなど、子ども達の学力をさらに向上させる授業方法について学ぶ必要がある。
- 2 家庭学習の時間に、顕著な伸びが見られていない。
- 3 学力低位層の子どもたちを引き上げるような魅力ある授業参観の実施をしていく必要がある。
- 4 家庭連絡ノートなどの作成による保護者と協力・連携した家庭学習の取り組みをしていく必要がある。
- 5 小中連携の会議や研修は隣の中学校区も含め、学力向上の取り組みなどいいところを共有する必要がある。

改善策

- ・バランスのとれた成長を実現するために本校の生徒の課題を踏まえて、強化すべきことを重点目標に組み込んでいく。
- ・生徒の意識を向上させるために、できるだけ具体的な策を練っていく。
- ・各委員会の活性化、特に研究推進委員会を中心とした取り組みを強化していく。
- ・OJTを活発に行い、長期的なビジョンでの適材適所を考えた職員の分掌担当を決める。

学校評価アンケート

生徒アンケート)より

良い点・・・学校のきまりを守れている生徒が多い。授業へ真面目に取り組んでいる。挨拶や正しい言葉遣いを心がけている。仲の良い友達がいる。

課題・・・全体的に夜寝るのが遅く、朝ごはんを食べていない生徒が約 15%いる。家庭学習 60分以下が 40%近くいる。学習の用意が前日に準備できていない、また宿題がきちんとできていない生徒が約 20%いる。2 時間以上テレビを見る生徒が約 50%いる。

保護者アンケート)より

良い点・・・おおむね子ども達は学校生活を楽しむことができている。配布物に目を通すことができている。友だち関係がよく、挨拶や服装面ができている。少人数授業に効果がある。以上、肯定的に考えていただいています。

課題・・・前日の準備や家庭学習ができていない。学習面での取り組みがまだまだである（自ら進んで取り組んでいない）。学校行事にあまり参加できていない。学力UPに向けての課題がはっきりしています。学校と家庭の両方で取り組む必要があります。

(教職員アンケート)より

良い点・・・授業が計画通り進んだ。客観的な評価ができた。評価規準、見通しを持った授業ができた。生徒との積極的な関わりを心がけた。始業時間が守られている。保健管理、安全防災教育ができている。

課題・・・本年度の研究テーマを意識した日々の実践や教育活動がやや弱い（単元ごとのテストや振り返り、家庭学習を定着させる指導）。校外での研修への参加が少ない。生徒指導対応で、共通理解を深めていく必要がある。

学校関係者評価より

(総評) 本校の今年度の重点目標とその取り組み状況について

学校運営について

「学校だより」「ホームページによる地域への情報公開」、「学年だより・学級だより」による保護者・生徒への情報公開は協力・理解を求める唯一の手段だと思ふ。先生方の努力も伺えた。今後も継続してもらいたい。

「学校公開日」は多くの方が参観できる日が良い。体育大会の実施日については難しい面はあると思うが、生徒達の活動を知る機会ととらえて、計画してもらいたい。

教育課程について

家庭学習と授業をつなげ、「分かる授業」を目指して欲しい。中学校の先生同士の情報交換はもちろんだが、小学校の先生方との学力面での情報交換・協議も大変重要である。家庭学習の促進が必要である。

色々な体験活動の取り組みは評価できる。体験活動を通して、学習への生徒の興味・関心を呼びおこす必要がある。

防災教育については学校だけで行うのではなく、できるだけ地域を巻き込んで実施してはどうか。

その他について

不登校生の増加は問題である。初期対応を迅速に的確に行う必要がある。保護者との連携もあきらめずに学校側が主体となってやるべきである。

挨拶ができない生徒が増えているように思う。

【取り組みの方向性】

- ・一番の課題である学力向上に関して生徒に直接勉学の魅力や必要性を感じさせる授業にするため相互の研修や情報交換、工夫等について学校全体で方策を練る。
- ・放課後学習などの取り組みが授業とリンクするよう教材を工夫する。
- ・クラブ活動だけでなく、生徒会活動(自治活動)で生徒の自主性や社会性や意欲を育む。
- ・心の育成や社会力をつけるための体験活動やキャリア教育をより充実させる。

生徒アンケート集計結果一覧	1年	2年	3年	平均				
(1) 学校の授業について	4100	4100	4100	4100				
授業の授業はわかりやすい 平均	63%	31%	74%	16%	77%	15%	71%	21%
(2) 学校の授業の取り組みについて								
1. 国語の授業内容がわかるように努力している。	72%	23%	80%	6%	92%	4%	83%	11%
2. 社会の授業内容がわかるように努力している。	74%	23%	74%	14%	91%	4%	80%	14%
3. 数学の授業内容がわかるように努力している。	70%	22%	70%	11%	82%	12%	74%	15%
4. 理科の授業内容がわかるように努力している。	49%	44%	54%	32%	84%	0%	83%	28%
5. 家庭科の授業内容がわかるように努力している。	82%	10%	77%	7%	87%	4%	82%	8%
6. 音楽の授業内容がわかるように努力している。	65%	26%	72%	17%	84%	12%	72%	18%
7. 美術の授業内容がわかるように努力している。	67%	24%	70%	15%	81%	10%	72%	17%
8. 体育の授業内容がわかるように努力している。	77%	13%	83%	3%	90%	0%	83%	7%
9. 英語の授業内容がわかるように努力している。	60%	34%	77%	7%	86%	9%	74%	17%
10. 道徳科の授業内容がわかるように努力している。	60%	27%	81%	6%	79%	13%	74%	15%
授業内容がわかるように努力している 平均	68%	25%	75%	12%	86%	8%	76%	15%
(3) 学校生活について								
1. 学校にこれだけ満足している。	22%	21%	27%	17%	84%	12%	28%	17%
2. 学校の30分間の授業は(授業のA-A)にたいして満足している。	70%	23%	65%	7%	83%	14%	79%	12%
3. 学校の授業が面白く感じている。	63%	24%	84%	3%	74%	19%	74%	18%
4. ふらふらや寝不足の状態に、先生に相談ができる。	50%	40%	50%	26%	62%	32%	54%	26%
5. 友達とよく話しかけあっている。	71%	19%	63%	23%	63%	43%	59%	27%
6. 授業中寝不足は授業である。	62%	30%	65%	23%	69%	27%	65%	27%
7. 授業中寝不足は授業のあとに寝ている。	85%	2%	84%	2%	91%	5%	84%	6%
8. 授業中寝不足は授業中である。	62%	27%	66%	5%	84%	10%	77%	14%
9. その他にふたつ以上の授業が面白いと感じることができる。	85%	24%	82%	9%	81%	12%	82%	15%
10. 仲の良い友達がいる。	88%	3%	84%	7%	90%	4%	87%	5%
(4) 進路生活について								
1. 進路は決まらずに迷っている。	65%	28%	47%	47%	40%	32%	53%	42%
2. 進路は決まらずに迷っている。	44%	45%	40%	49%	30%	65%	38%	53%
3. 進路は決まらずに迷っている。	76%	16%	78%	13%	69%	21%	73%	16%
4. 進路は決まらずに迷っている。	64%	23%	61%	27%	53%	31%	69%	32%
5. 学校の授業は進路決定に役立つ。	58%	50%	40%	48%	53%	40%	43%	46%
6. 進路は決まらず、(自主学習ノート)。	47%	43%	49%	40%	60%	27%	52%	37%
7. 自主学習ノートを提出している。	15%	77%	52%	36%	17%	74%	29%	62%
8. 進路学習は30分以内である。(1日1時間、進路学習)	26%	45%	32%	58%	49%	47%	33%	37%
9. 学習意欲は高い。	20%	60%	43%	45%	50%	38%	43%	48%
10. 進路は決まらずに迷っている。(平均の進路)	34%	57%	38%	51%	39%	56%	37%	55%
11. 自分自身の進路を決定している。	64%	26%	64%	23%	71%	22%	67%	24%

保護者アンケート26年度 (212名の回答/302) 回答率 70.2%		単位	
(1) 学校経営について			
1. 学校は、教育方針を家庭に分かりやすく伝えている。	51%	45%	
2. 学校は、学力向上に取り組み成果を上げている。	45%	51%	
3. 学校は、学力だけでなく豊かな心を育成し、体力を向上させようとしている。	63%	31%	
4. 学校は、校内の整備・美化に努めている。	63%	33%	
5. 学校は、評議・成果・各種誌について、積極的に行っている。	64%	31%	
6. 総合的に、若草中学校の教育については、満足している。	54%	40%	
7. 数学・英語の授業で行われている、少人数学習や複数教師による指導について理解している。	66%	27%	
8. 少人数学習や複数教師による指導システムが、生徒にメリットがあると思う。	83%	10%	
(2) お子さんについて			
1. 普段、子どもは、仲の良い友だちがいる。	92%	3%	
2. 普段、子どもは、授業を理解しようとしている。	77%	17%	
3. 普段、子どもは、いろんな行事を楽しみにし、充実感を味わっている。	80%	13%	
4. 普段、子どもは、あいさつ・服装をきちんとしている。	76%	15%	
5. 普段、子どもは、明日の授業の用意を前日に行っている。	46%	48%	
6. 普段、子どもは、平均して30分以上勉強している。	47%	45%	
(3) 先生について			
1. 先生達は、一生懸命、教えてくれていると思う。	82%	14%	
2. 先生達は、子どもを理解しようとしてくれていると思う。	73%	21%	
3. 先生達は、子どもの間違った行動に対して厳しく指導してくれると思う。	70%	24%	
4. 先生達は、学校での子どもの様子を知らせてくれると思う。	59%	38%	
5. 先生達は、いじめやめずなどがあれば適切に対応してくれると思う。	62%	31%	
(4) 保護者自身について			
1. 学校よりなどの学校からの配布物には目を通している。	80%	14%	
2. 学校の参観や行事には参加している。	58%	37%	
3. 家庭学習について積極的に声かけをしている。	69%	26%	
4. テレビや携帯電話などでルールを親子で決めている。	63%	34%	
5. あいさつやマナーの大切さを教えている。	88%	4%	
(5) 若草中学校の生徒について			
1. 若草中学校の生徒は、おおむねルールを守っていると思う。	65%	28%	
2. 若草中学校の生徒は、おおむね服装を正していると思う。	80%	16%	
3. 若草中学校の生徒は、おおむね思いやりがあり、優しい心を持っていると思う。	78%	15%	

(A よくあてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない)

	A	B	C	D
1 教育目標・研究テーマ・学校運営				
(1) 「生きる力」の育成について効果的な学校運営ができたと思う。	2	10	6	0
教育目標「自ら進んで粘り強く活動し(意)、目的を持って意欲的に学習に取り組み(知)豊かな心と思いやりを持ち(徳)心身ともに健康な(体)生徒を育成する」は良いと思いますか	6	12	0	0
(3) 教育目標が日々の実践に生かされていると思う。	2	13	2	1
(4) 研究テーマ「手応えある個々の学力UPを目指した工夫改善と自治活動の推進」	0	14	3	1
(5) 校長にこんな学校をつくりたいという経営のビジョンが感じられる。	3	10	5	0
(6) 学校運営に教職員の意見が反映されていると思う。	1	15	2	0
2 学習指導 教科・道徳				
(7) 授業が、年間計画通りにできた。	2	12	4	0
(8) 生徒に評価の基準を示し授業の見通しを立てさせることができた。	2	12	4	0
(9) 客観的な評価基準のもと信頼性のある評価(評定)ができた。	4	10	4	0
(10) 単元ごとに確認テストを実施し、自己チェックシートで学習の振り返りをさせることができた。	1	10	6	1
(11) 自分自身の授業について、工夫・改善できた。	1	12	5	0
(12) 授業の決まりは徹底させることができた。	2	11	6	0
(13) 宿題やその点検、確認テストなど家庭学習を習慣づける指導ができた。	1	10	7	0
(14) 道徳・人権の年間指導計画に従って道徳の授業ができた。	2	12	4	0
3 特別活動・学校行事・課外クラブ				
(15) 「総合的な学習の時間」で、「探求する力」を育成することができた。	1	11	6	0
(16) 家庭訪問は、保護者との連携・信頼関係作りや、学校の説明責任を果たすなど、効果的に実施できた。	1	9	7	1
(17) 修学旅行・宿泊学習の企画運営は三年間を見据えたものになっている。	2	10	6	0
(18) 体育大会・文化発表会など保護者・地域を招いての行事の運営はこれでよいと思う。	0	12	5	1
(19) 生徒会活動の企画運営はこれでよいと思う。	1	15	1	1
(20) 学年(学級)として、生徒の自主的な活動の場を与え、社会性・感性・主体性を伸ばすことができた。	2	13	3	0
(21) 部活動にかかわり、生徒の「生きる力」を育成することができた。	1	13	4	0
4 特別支援教育				
(22) 本校の特別支援教育体制はこれでよいと思う。	1	13	4	0
(23) 特別支援(基礎学級も含む)の生徒の共通理解を深め、個に応じた適切な指導・支援ができた。	1	12	5	0
5 生徒指導				

(24)	本校の生徒指導体制はこれでよいと思う。	1	13	3	1
(25)	各学年とも共通理解のもと、生徒指導対応ができていると思う。	2	11	4	1
(26)	遅刻指導・風紀指導など基本的生活習慣の育成を図れた。	0	9	7	2
(27)	保護者対応や関係機関対応に関して管理職も含めた報告・連絡・相談ができていた。	1	10	6	1
(28)	長欠生徒や別室生徒への指導がきめ細かくできたと思う	0	10	5	3
(29)	不登校担当・スクールカウンセラー・心の教育指導補助員・訪問指導員との連携がよくとれていたと思う	1	11	5	1
6 進路指導					
(30)	進路指導体制など学年の計画・運営はしっかりできていた。	1	16	1	0
7 保健管理					
(31)	緊急時の対応が、組織として迅速・適切になされていたと思う。	4	13	1	0
(32)	保健室との連携が緊密にとれ、保健安全面の指導が適切になされた。	4	14	0	0
(33)	学校保健教育体制はこれでよいと思う。	4	14	0	0
8 職員・研修					
(34)	自分の書類・ファイル・データは適切に管理し、処理できていた。	3	14	1	0
(35)	生徒に積極的にかかわりふれあいを深め、信頼関係を築く努力をした。	4	13	1	0
(36)	チャイムと同時に授業を始められた。	5	11	2	0
(37)	各委員会は活動の目標を明確にし、活動していましたか	3	14	1	0
(38)	成績データや個人情報などに関して、記憶媒体の扱いも含め、セキュリティは安全だった。	5	12	1	0
(39)	校内研修に積極的に取り組み自身の資質向上に役立てられた。	4	12	2	0
(40)	校外の研修に積極的に参加し資質を高め成果を教育実践に生かせた。	0	10	7	1
9 安全防災教育					
(41)	人間尊重に基づいた人権教育の視点で、生徒に安全教育ができた。	4	12	2	0
(42)	不審者や事故への対応など危機管理意識を持ち、適切な対応ができた。	2	14	2	0
(43)	避難訓練や授業・クラブにおいて安全指導の徹底を図ることができた。	2	13	3	0
10 施設・整備					
(44)	担当区域の安全管理を徹底し、施設や設備の不備を報告・修理した。	2	15	1	0
(45)	校内の美化を心がけ、担当教室などは整理整頓し適切に使用した。	2	14	2	0
11 P T A ・地域社会					
(46)	小中連携や社会人講師を招くなどの取り組みを意識し、実施した。	1	10	6	1
(47)	P T A の活動内容等について十分理解し、協力・支援できた。	4	12	2	0
(48)	説明責任を果たし保護者の学校への理解、協力が得られる努力をした。	1	13	4	0